

2018年度

# 事業報告書

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

学校法人 岐阜済美学院

## 目次

### I 法人の概要

- 1. 設置する学校・学部・学科等 …… 2
- 2. 学院設置学校（園）の入学定員及び学生・生徒・園児の状況 …… 2

### II 事業の概要

- 1. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部の事業 …… 6
- 2. 済美高等学校の事業 …… 14
- 3. 中部学院大学短期大学部附属幼稚園の事業 …… 19
- 4. 中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園の事業 …… 21

# I 法人の概要

## 1. 設置する学校・学部・学科等

- \* 中部学院大学[1996（平 8）年 12 月設置] 関市桐ヶ丘 各務原市那加  
 大学院 人間福祉学研究科 人間福祉学専攻 [修士課程] [博士課程（後期）]  
 人間福祉学部 人間福祉学科  
 教育学部 子ども教育学科  
 看護リハビリテーション学部 理学療法学科・看護学科  
 経営学部 経営学科  
 スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科  
 通信教育部 人間福祉学部 人間福祉学科  
 留学生別科
- \* 中部学院大学短期大学部[1967（昭和 42）年 1 月設置] 関市桐ヶ丘 各務原市那加  
 幼児教育学科  
 社会福祉学科
- \* 済美高等学校[1918（大 7）年 9 月設置] 岐阜市正法寺町  
 男女共学部 普通科・商業科・保育科  
 女子部 普通科・保育科・衛生看護科
- \* 中部学院大学短期大学部附属幼稚園[1973（昭和 48）年 2 月設置] 岐阜市下土居
- \* 中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園[1979（昭和 54）年 12 月設置] 関市桐ヶ丘

## 2. 学院設置学校（園）の学生・生徒・園児数

2018.5.1 現在

### (1) 学校別総計

(単位 人)

学 校 名	学生・生徒・園児数
中部学院大学大学院	21
中部学院大学	1,485
中部学院大学（通信教育部）	625
中部学院大学（留学生別科）	25
中部学院大学短期大学部	327
済美高等学校	775
中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属幼稚園	200
中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園	164
子ども家庭支援センター（桐が丘幼稚園分室）	15
計	3,637

(2) 各学校別学部・学科別学生・生徒・園児数

＜中部学院大学（学部・学年別）学生数＞

(単位人)

学部・学科	入学院員	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	計
人間福祉学研究科						
修士課程	5	2 ( 1)	5 ( 4)	-	-	7 ( 5)
博士課程	3	4 ( 1)	3 ( 1)	7 ( 4)	-	14 ( 6)
計	8	6 ( 2)	8 ( 5)	7 ( 4)	-	21 ( 11)
人間福祉学部						
人間福祉学科	100	103 ( 62)	77 ( 36)	92 ( 56)	88 ( 42)	360 (196)
教育学部						
子ども教育学科	80	73 ( 17)	59 ( 21)	62 (18)	84 (12)	278 ( 68)
看護リハビリテーション学部						
理学療法学科	60	74 ( 47)	64 ( 40)	37 ( 22)	63 ( 43)	238 (152)
看護学科	80	83 ( 15)	68 ( 9)	65 ( 18)	72 ( 16)	288 ( 58)
計	140	157 ( 62)	132 ( 49)	102 ( 40)	135 ( 59)	526 (210)
経営学部						
経営学科				81 ( 73)	63 ( 54)	144 (127)
スポーツ健康科学部						
スポーツ健康科学科	80	94 ( 66)	83 ( 69)			177 (135)
合 計	408	433(209)	359(180)	344 (191)	370 (167)	1,506 (747)
通信教育部 (正科生)	100	22 ( 6)	58 ( 14)	143 ( 42)	402 (136)	625 (198)
留学生別科	30	25 ( 6)				25 ( 6)
総 計	538	480 (221)	417 (194)	487 (233)	772 (303)	2,156 (951)

注 ( ) 内は、男子数で内数

人間福祉学科 3 年次編入定員 15 人・子ども教育学科 3 年次編入定員 10 人

通信教育部 1 学年の入学手続き締切は 6/14

2014 年 4 月よりリハビリテーション学部を看護リハビリテーション学部に変更

2015 年 4 月より子ども学部子ども学科を教育学部子ども教育学科に変更

2017 年 4 月よりスポーツ健康科学部スポーツ健康学科開設

留学生 (人間福祉学科 32 人, 経営学科 14 人, 修士 1 人, 計 47 人)

< 中部学院大学短期大学部（学科・学年別）学生数 >

(単位人)

学 科	入学定員	1 学年	2 学年	計
幼児教育学科	100	99 ( 4)	100 (5)	199 ( 9)
社会福祉学科	80	61 ( 8)	67 (16)	128 (24)
総 計	180	160 (12)	167 (21)	327 (33)

注 ( ) 内は、男子数で内数

幼児教育学科のうち、委託訓練生 10 人 (1 年生 10 人) 含む

社会福祉学科のうち、委託訓練生 32 人 (1 年生 13 人、2 年生 19 人) 含む

留学生 (社会福祉学科 2 人)

< 済美高等学校（科・学年別）生徒数 >

(単位人)

学 科	募集定員	1 学年	2 学年	3 学年	計
普通科	225	159 (36) [6]	109 (38) [4]	37 (17) [2]	305 (91) [12]
商業科	40	27 (13) [1]	13 ( 8) [1]	20 ( 7) [1]	60 (28) [3]
保育科	60	42 ( 1) [1]	—	—	42 ( 1) [1]
女子部普通科 (2,3 年)	—	—	60 [2]	131 [4]	191 [ 6]
女子部保育科 (2,3 年)	—	—	40 [1]	46 [2]	86 [3]
衛生看護科 (女子のみ)	40	39 [1]	33 [1]	19 [1]	91 [3]
計	365	267 ( 50) [9]	255 ( 46) [9]	253 ( 24) [10]	775 (120) [28]

注 ( ) 内は、男子数で内数

[ ] 内は、クラス数

< 中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属・幼稚園(年齢別)園児数 > (単位 人)

	収容定員	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
附属幼稚園	200	1 [1]	68 [3]	62 [2]	69 [2]	200 [8]
桐が丘幼稚園	200	2 [1]	47 [3]	55 [2]	60 [2]	164 [8]
計	400	3 [2]	115 [6]	117 [4]	129 [4]	364 [16]

注 [ ] 内は、クラス数

< 子ども家庭支援センター(桐が丘幼稚園分室) 幼児数 > (単位 人)

	幼 児
ひよこ	15

< シティカレッジ関(延べ受講者数) >

	前 期	後 期	計
ビジネス系講座	0	9	9
福祉系講習	94	96	190
外国語講座	93	87	180
健康・スポーツ講座	237	271	508
教養・趣味等講座	162	135	297
わかくさプラザ開講講座	175	110	285
キッズ講座	150	116	266
計	911	824	1,735

< シティカレッジ各務原(延べ受講者数) >

	前 期	後 期	計
アインシュタインコース	226	213	439
ソクラテスコース	477	491	968
レオナルドダビンチコース	204	221	425
計	907	925	1,832

※アインシュタインコース : 特別な分野に興味・関心を持つ中学生までのコース

ソクラテスコース : ゆっくりじっくりと自分独自の大学生活を味わうコース

レオナルドダビンチコース : 道を究め専門的な技術や知識を高めるコース

## II 事業の概要

### 1. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部の事業

#### 1. 教育方針

中部学院大学並びに中部学院大学短期大学部は、キリスト教福音主義のもと建学の精神を「神を畏れることは知識のはじめである」と定め、医療・介護・教育・福祉・スポーツ健康・経営の各領域に亘る現場経験の豊富な教授陣による教育と、こころ豊かな人間性を育む生活環境を整え、一人ひとりの学生に対して自分自身の未来を実現するための指導体制を展開しています。

#### 2. 事業報告

##### 1) 今年度の取り組み

2018(平成 30)年度の主な取り組み

大学及び短期大学部では、引き続き両学長のリーダーシップの下、大学改革を推進した。まず、大学経営会議においては、「第 1 期中期計画(アクションプラン)」を PDCA サイクルに基づいて遂行する仕組みが構築 4 年目を迎え、その機能を果たしてきた。また、IR 推進センターでは、引き続き客観的データに基づく分析と点検を通して、具体的な施策への反映を進めた。

また、内部質保証の充実に向けた学内調査の刷新や教員の教育・研究等の活動を顕在化する取り組みを通して、本学の強みを整理し、施策の選択と集中を図れることができる組織作りを行った。具体的には、企画戦略課及び教育研究支援課を企画部として改編し、また新たに国際交流・地域連携部を新設し、国際交流・留学生支援課と地域・産学連携課を所管するとともに、広報の更なる充実を図るため大学広報室を設置して体制の強化を図った。

この他、福祉施設と連携した留学生受入れ事業や介護福祉士実務者研修制度等、本学の人的資源を生かした施策を実施した。

##### <大学・短大>

- ・文科省「高大接続実行プラン」を踏まえた新入試制度改革に向けて、入試制度改革委員会・教育改革委員会等を中心に、入学前教育の充実を含めた新入試制度について検討を行い、高等学校の意向を探りながら、プランの実行に入り始めた。
- ・2020 年度施行予定の「高等教育負担軽減施策(授業料無償化施策)」を見据え、2019 年度の本格的な体制整備に向けて、申請手続き等の準備を進めた。
- ・昨年度に引き続き、「私立大学等改革総合支援事業」(タイプ 1・5、タイプ 5 は 2018 年度初採択)、「私立大学経営強化集中支援事業」の各種

補助金事業の採択を受けた。

- ・2019年度に短大基準協会の審査を受けることを見据えた短期大学の自己点検・評価活動を推進した。

## 2) 学部（学科）・事務局事業報告

全学的に推進する活動に加えて、各学部・学科においても教育・研究の充実・発展を図るために下記の取り組みを行った。

### (1) 大学

#### (ア) 人間福祉学科：

各種国家試験について、対策講座、模擬試験の充実を図り、個々の学生の支援を強化した結果、現役合格率は、社会福祉士 66.7% (62.7%)、介護福祉士 100% (100%) で、全国平均を大きく上回った。なお、精神保健福祉士 58.8% (62.7%) であった (※()内前年度)。また公務員採用試験合格者は岐阜県福祉職 3 名を含む 7 名であった。

学生募集については、済美高校をはじめとする各高校での出前授業に取り組み、済美高校の他 16 校の高校において実施した。また、多様な福祉の職場を紹介するため「高校生のための福祉の仕事セミナー」を開催し、病院や刑務所などで活躍するソーシャルワーカーを紹介した。支援を要する障害学生については学生支援委員会を中心に学部教員が連携して学習支援等を行った。留学生 (32 名) については、留学生・教員の交流会を開催し留学生と顔の見える関係をつくり、年間を通じて生活、学習、就職支援等を行った。

また学部の将来構想については、①学生募集の取り組みを強化、②国家試験合格率を高める、③各学年に配置している学年主任・学年コーディネーターを中心に学生育てを充実、④岐阜県内の福祉実践の研究・地域福祉の拠点として役割の強化、⑤現場で活躍する卒業生とのネットワークの強化、等である。

#### (イ) 子ども教育学科

教育学部を小学校・中学校教諭コースと幼稚園教諭・保育士コースの 2 コース制に改編するとともに中学校教諭一種免許状(英語)の資格取得を可能にした。これにより、小学校英語の必修化に伴う、学生の英語力向上に拍車がかかった。

教員養成への取り組みとしては、基礎学力の向上に向けて、基礎ゼミの内容を充実させるとともに、学科では「教師への道」を新設し、教職センターにおいては、「教員採用試験対策講座」、「教師塾」、「東京アカデミー教員採用試験対策講座」を開催した。

今年度の卒業生 80 名 (79 名が就職を希望した)のうち、平成 30 年度教員採用試験の結果は、2 名が常勤採用、12 名が講師採用、1 名が教職大学院進学であった。さらに幼稚園教諭 9 名、保育士 21 名、児童福祉関連 18 名の専門職を養成した。

また、時代に応じた教員（小学校・幼稚園）・保育士を養成するための大学教員の実践力、指導力を高めるため、連携協定を締結している北陸学院大学との「保育・幼児教育分野での第1回の研究会」を始めとし、「小学校英語に関する教育フォーラム」「子ども未来セミナー」、「我が国における教職課程の課題と開放性養成として描くべき将来像」（講演）を開催した。

#### (ウ) 理学療法学科

一年次から検査・測定論など専門科目を配置し、理学療法士への動機づけを行った。

また専門科目や基礎演習、理学療法概論などで、人を対象とする医療人、社会人に相応しい接遇への関心を持つように指導した。

学外での学びとしての臨床実習を充実するために、2年次の臨床実習に対する複数回の実習指導、3年次の臨床実習指導（前期・後期）と4年次の臨床実習指導（前期）を配置した。その中で3年次には前期、後期に渡りOSCEを導入し、臨床実習実施の円滑化を図っている。OSCEについては、学内での実施を重ねるごとに、より充実した内容へと変化させた。

臨床実習と国家試験対策を円滑に進めるため、2年次より定期的に「達成度試験」を実施し、知識を確認するとともに、その結果を速やかに各学生にフィードバックし、各自の弱点の改善に役立てた。4年次の国家試験対策では、過去問題を学内で加工した模擬テスト（いわゆる業者模試）を用い、各学生の弱点の改善を図りつつ、これまでに蓄積したデータを基にして学生の指導を行った。

#### (エ) 看護学科

2017年度に続き看護師国家試験合格率100%を2年連続で達成した。その背景として、①1年から4年生まで、段階的に国試ガイダンスを実施し、先輩による体験談を聞く機会をつくる、WEB教材による自己学習を奨める等、低学年からの取り組みによる意識付けをした。②4年生では重点的に国試問題の解き方のポイントを、全領域を特論A（必修）・特論B（看護学）・特論C（認定試験で50%以上ミスした問題）にわけ、段階的に講義した。③特論の理解度について模擬試験を実施した。④後期は国試当日まで、あらゆる模擬問題を繰り返し解き、結果の振り返り学習を確実に実施した。④ゼミ教員が個別的に学習生活をフォローし、学生が孤立しないよう学生の不特定グループ学習を進め、全学科で支え、励まし、環境整備した。これらが功を奏したものと考えている。

選抜学生18名の2つ目の資格である保健師国家試験は77.5%に留まり課題を残した。更なる国家試験対策の充実、臨地実習指導を効果的に行うため、実習施設との関係性を一層強め、学生が充実した学習ができる体制の構築を目指している。

### (オ) 経営学科

学部学科の改編により、2017年度からの入学生の募集を停止した。これに伴い、2018年度は3・4年次生のみ構成となっており、現在は2019(平成31)年度までに全ての学部生の卒業を支援するための個人指導を含めたフォロー対策を進めている。

こうした中、「協同組合」との連携による新規ビジネスモデルを調査し、商品開発を進めるなど活発な活動を行った。さらに、経営学部の前身である短期大学部経営情報学科時代から十数年間の伝統を誇る「現代産業研究」を新に「現代マネジメント研究」と改称し、全学的な選択履修を可能にした。

また短期大学部商学科から引き継ぐ35年の歴史を振り返る記念誌等の作業を実施している。

### (カ) スポーツ健康科学科

開学科3年目を迎え、3年生は専門ゼミに加え、インターンシップなど専門性の高い教育に移行した。その中で学生には、より専門性が高い知識や考え方等を学ぶべき体制を確立して学生の教育を行った。

通常教育では特に、体育科教員就職対策として体育科教員特別演習の授業を開講し、教員に必要な一般教養・教職教養等の充実を図る講義を行った。専門教育（特に専門ゼミ）では、受講時において本人希望を最優先して適正人数にクラス分けを行い、個別学生の教育の学習状況等を把握しながら学習への意欲を高める指導を行った。

キャリア支援では、学生に対して就職への意識を高揚させ、トップアスリートなど職業人として、また社会人として身につけなければならない知識・技能などについての講演会を行った。

カリキュラムの改革により、柔軟性のある授業科目選択を可能にし、学生の学習意欲の向上が図れるよう改革を行った。また、教育の質の保証や将来的な希望の実現に向けた相談ができる学科内委員会を設置（学生支援委員会、カリキュラム検討委員会、将来構想委員会）し、様々な学生に関する課題や要望に対応した。

## (2) 短期大学部

### (ア) 幼児教育学科

2019年度の入学者数については学科定員100名に対して86名に留まる結果となったが、入学生の質の確保については、多様な入試の実施により担保できた。年度末に、初めての試みとして入学前研修を実施したことにより、次年度入学生の大学生活への期待を高めることができた。次年度は、入学定員の確保に一層努力するとともに、保育士養成並びに幼稚園教諭養成課程の改定に伴う授業環境を整えていく。

また、連携協定を締結している各自治体との事業の中で、単年度の予定で2017年度に実施した事業を自治体の要請により2018年度も引き続

き実施した。また 2019 年度も同様の要請を受けている。これは幼児教育ならではの活動が住民のみなさんに評価された証と考えられる。

#### (イ) 社会福祉学科

社会福祉学科：学生募集活動では、学科定員 80 名に対して 81 人の入学者を確保し定員充足を果たした。ただし、2019 年度に新設する「医療事務」では希望者 3 名（美と合わせて 10 名）であった。2018 年度の就職実績では、美・卒業生の 6 割が医療事務であり、これらも含めて、美・デザイン、医療事務コースの 2020 年度学生募集に向けた取り組みを強化する必要がある。介護福祉コースでは留学生 23 名の 2019 年度入学が決まり、定員確保に貢献している。2018 年度には留学生別科との連携授業やオープンキャンパス参加などに取り組み、また、2019 年度に向けた日本語授業等新設の準備など、支援体制づくりに取り組んだ。なお、介護福祉士国家試験については、合格率 86.7%（2017 年度 77.1%）で、2018 年度全国養成校平均 83.7%を上回った。

### (3) 事務局

事務局においても、上記の全学をあげての取り組みに真摯に取り組むとともに、学部・学科と連携して教育・研究等の向上に努めた。

#### (ア) 総務部

総務課では 2016 年に策定した「関キャンパス施設修繕計画」に基づき、また各務原キャンパスでは 2015 年に策定した「施設改善計画事業」に基づき、それぞれ経年劣化した校舎等建物、電気・機械・水道等設備等において、危険度、緊急度が高い箇所から修繕を実施した。教職員の健康管理では、全ての職員を対象に「健康診断」及び「ストレスチェック診断」を実施し、疾病の早期発見、早期治療に努めることで、教職員の”こころ”と”からだ”の健康保持に努めた。また、今年度も企画戦略課とともに S D 研修の更なる充実を図り、教職員のスキルアップに繋げた。

会計課は各種補助金の獲得に向けた情報の収集と学内への情報発信を図った。また、四半期ごと予算執行状況の把握と各部署への周知を図り、予算管理の徹底を図った。

生涯学習課は、関市、各務原市などとの連携を推進しつつ、今年度新たに「介護福祉士実務者研修」を開講するとともに、「教員免許講習」については昨年度の 6 講習から 14 講習への充実を図った。また、岐阜県委託事業として「介護人材確保・育成支援事業」を新たに実施した。

#### (イ) 企画部

企画戦略課は、文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」、「私立大学経営強化集中支援事業」等の各種補助金事業の採択に向けて、学内関係各所間の調整を行った。また、2020 年度より施行予定の文科省「高等教育負担軽減施策（授業料無償化施策）」への対応準備に向けて情報収集・学内周知等の調整を行った。I R 推進センターにおいては、昨年度に引き続

き客観的データに基づく分析と点検を通して、具体的な施策の反映に取り組んだ。

教育研究支援課は、情報支援として情報ネットワーク基盤の整備・運用及び学内システムの導入支援を行った。具体的には、証明書発行システムの入替、学生ポータルシステムの運用改善に向けた学内検討に取り組んだ。研究支援については、教員の研究活動への支援強化を図り、引き続き外部資金の獲得及び研究助成情報の発信に努めるとともにFD活動への支援を強化しその定着を図った。また、大学間協定校関係では、大学は北陸学院大学と短大は新潟青陵大学短期大学部との研究交流の具体化を図った。

#### (ウ) 教務部

教務課では教育改革を推進するため必要な情報収集・取り組みの整理及び引き続き教職員、学生への効果的なサポートを行った。特に、教職課程における再課程認定を受けるとともに、教育学部の中学校教員（英語）免許設置に伴い、「幼稚園教諭・保育士コース」と「小学校・中学校教諭コース」の2コース制でのカリキュラムを整備した。また、実習センターは、実習種別の拡大化、新カリキュラム移行に伴う実習体制の複雑化に伴った支援、インターシップ、看護学実習などを円滑に進める実習システムの見直しを図った。

通信教育部事務課は、定員の充足を達成するため、教育、地域戦略、教育方法、広報の4つのセグメント別に施策を検討し、新たに浜松医療学院と併設連携協定を締結した。

#### (エ) 学生支援部

学生課は、学生一人一人が生き生きとした学生生活を送り自立した社会人となれるよう課外活動、大学行事等への支援を進めた。また、学修上の様々な課題を抱える学生、障がいのある学生、経済的困難を抱える学生等に対して関係部署と情報の共有を図りながら組織的で迅速な学生支援をすすめた。

キャリア支援センター事務課は、全ての学生の健全で自立的な職業観の育成を図りながら、一人一人の学生に対応するきめ細かな就職支援を進めた。その結果、公務員について大学・短期大学部合わせて、4年連続30人以上が合格するとともに、大学は全学科平均で就職率98.8%、短期大学部幼児教育学科17年連続、社会福祉学科16年連続の就職率100%を達成した。

また、今年度も学生たちが課外・クラブ活動において多くの実績を残した。硬式野球部は、東海大学野球秋季岐阜リーグ戦優勝、東海地区秋季選手権大会準優勝、東海・北陸・愛知三連盟王座決定戦にて優勝し、4年ぶり3度目の明治神宮大会に出場した。陸上競技部では、スポーツ健康科学部1年の橋あぐりが日本学生対校選手権（インカレ）の陸上女子1万メートル競歩で初出場初優勝を飾った。またこの功績により清流の国ぎふ栄

誉賞を受賞した。ゴルフ部の活躍も目覚しく、男子は全国大学対抗戦にて過去最高となる準優勝を飾るなど、各大会で個人と団体において好成績を収めた。新に発足した空手道部は、女子団体形、男子、女子ともに個人において全日本大学空手道選手権に出場するなど、全員が一年生にもかかわらず好成績を収めた。

#### (オ)入試広報部

2019年入試(2020年4月入学)のフレームづくりのため、現行の入試制度の見直しを行った。入試制度改革の勉強会開催をはじめ、英語能力試験のスコア利用の骨子の作成や入学前教育、AO入試の名称変更、授業料無償化への対応についても取り組んできた。

短期大学部においては、2019年3月に入学予定者を対象とした入学前教育として入学前研修を関キャンパスで3月に実施した。

学生募集においては、社会福祉学科医療事務コースの新設。スポーツ入試・吹奏楽入試の実施方法の変更、英語検定取得者特別奨学金(大学教育学部、短期大学部幼児教育学科)の試行的導入、3月入試に専門高校卒業生入試と地域貢献特別枠入試を設けるなど、多様な人材の確保に努めた。

このほか大学広報と入試広報の一体的な取り組みを実施するため大学広報室を設置し、学生確保と併せて大学のブランディング力の強化をスタートさせた。これらの取組みが上手く機能し、資料請求者やオープンキャンパスへの来場者が増加した。この結果、志願者数増加につながり、大学においては入学定員を充足することができた。

#### (カ)国際交流・地域連携部

地域・産学連携課は地域との連携強化をさらに図るため、自治体や企業との情報共有・意見交換の場を提供した。連携する自治体を招き「シーズ発表会」を開催し、自治体との連携活動実績を共有し意見交換会にて地域の課題共有を行った。連携する企業を招き「産学連携会議」を開催し、共同研究の事例紹介及び企業担当者と教員の懇談会を行い、企業と教員の研究活動の新事業に向けたマッチングを目指す機会を提供した。本学のキャンパスが位置する関市・各務原市と包括連携協定に基づき「各務原市との意見交換会」「関市との意見交換会」を行い、地域や本学が抱える課題の共有を図り連携の方向性や具体的な活動の検討を図った。岐阜県高齢福祉部との協定に基づき委託事業「福祉の仕事就職・ミニフェア開催業務」「外国人介護人材受入環境整備事業」を行った。国外における地域課題への取組として、JICA草の根技術協力事業パートナー型「ダナン市・グハンソン地区の地区病院を中心とする老年ケア・プログラム定着と人材育成事業」に採択を受け活動を遂行している。

国際交流・留学生支援課は本学の国際化推進に関する基本方針を定め、地域の国際的な課題に貢献できるグローバル人材の育成を目的に3つの海外研修を実施し、タイ交流旅行(2018.8.24~同8.27)に学生12名、

ハワイ研修（2019.3.4～同3.9）に学生10名、ベトナム研修（2019.3.25～同3.29）に学生16名がそれぞれ参加した。また、本学への留学生の支援として、郡上市の観光を通じた学生や職員との交流を図った。その他、日本人学生との交流会や市民との交流会を開催したり、自治体が開催するイベント等へ参加するなど、地域が抱える課題や国際的な視野に立つ人材の育成への支援を行った。また、日本語力の向上を図るため、日本文化や芸術を通じた体験を実施した。

(キ) 図書館事務課

各務原キャンパス図書館の出入り口を自動扉化しバリアフリー対応とした。関キャンパス図書館に「梶原文庫」を設置した。学生選書ツアーやビブリオバトルを通して、学生に本の楽しさをPRしている。

関市立図書館では年間来館者が25万人を超え、開館日数も300日を超えている。学校連携やイベント・講座の開催に加え、関市からの依頼で電子図書館業務を引き受け、特色ある図書館運営に努めている。また、多方面からの取材や原稿依頼に協力し、当館のPRに務めた。

## 2. 済美高等学校の事業

### 1. 教育方針

福音主義キリスト教に基づく学校教育を通して、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てることを目指しています。教職員にあつては、生徒の安全と学力保証を第一に考え、危機管理意識を共有しつつ、教育目標を明確にして、その具現化に努めるとともに、教育専門職としての矜持を持ち、常に自己の資質向上に努め、生徒の学力保証と進路希望の実現に邁進しています。また、生徒にあつても進路希望の実現を目指し、各教科及び学科・コースの目標を達成するため、主体的に考え、判断し、行動することなどを通して課題解決することができるように努めています。

### 2. 教育活動計画

#### 【普通科】

#### 1) 「選抜特進」「特進」「進学Ⅰ類」

「選抜特進」「特進」の2つのコースでは、「学力をつけて、一般入試で四年制大学へ進学する」という方針を掲げ、進学指導のしくみの構築に専心しています。この数年は、校長先生の進路講話を生徒及び保護者向けに何度も実施して進学に対する意識を育てること、模擬試験を有効に活用して学習を継続すること、さらに一昨年から平日17時35分まで、済美塾を開講するなど教科指導に力を入れてきました。その成果として今年3月の卒業生36人のうち1組の「選抜特進」14人から5人が国公立大に合格しました。(昨年は13人中9人)また、2組の「進学Ⅰ類」からも2人が国公立大に合格しています。国公立大合格数7の内訳は横浜国立大1、埼玉大1、岐阜薬科大1、愛知県立大1、静岡文化芸術大1、鹿屋体育大1、釧路公立大1です。私立大では、中央大2、青山学院大1、関西大1のほか、中部地区では南山大10、愛知大9、名城大9、中京大6、愛知学院大15と多くの生徒が合格し進学しています。合格者を絞り込んでいた難関私大にあつて、南山大に5人で10の合格数は、本校の指導のレベルが上がったことを示しています。

#### 2) 「進学Ⅱ類」「健康福祉」「生活文化」

普通科の「進学Ⅱ類コース」においては、基礎学力を定着化し、地元私立大学等への進学を目指し、また「健康福祉コース」においては、健康・福祉の基礎・基本を身につけ健康福祉系の大学進学や就職などを目指します。「生活文化コース」では、食物・ファッション等の基礎・基本を身につけ家政科系の大学進学や就職などを目指しました。

その結果、2018年度においては、中部学院大学の22名をはじめ四大に50名の合格をしています。また、推薦入試では、愛知淑徳大学に合格するなど着実に学力の向上を図ることができています。中部学院大学短期大学部に12名をはじめ、短大には31名が合格しました。さらに、推

薦入試において、静岡県立大学短期大学部や岐阜市立女子短期大学に合格することができました。主な進学先は以下の通りです。

<大学名>

- ・中部学院大学・愛知大学・同志社大学・愛知学院大学・名城大学
- ・金城学院大学・日本福祉大学・椋山女学園大学・愛知淑徳大学

### 【保育科】

学科教育の特色を明確にし、幼児教育・保育系の大学・短大への進学が出来る学力を保証し、将来保育の専門職に従事できる基礎的な知識・技能等を習得することを目指しました。1年生では中学教育と高等学校教育の円滑な接続を図るとともにキャリア教育の一環として保育体験学習を1日、2・3年生では保育実習を5日間実施し、将来、幼児教育、保育に関わる者としての態度を育てることを目指しました。その結果、保育技術検定1級に31名（3年生31名）、2級に36名（3年生4名、2年生32名）、3級に40名（2年生40名）が合格しました。また、進学においては、中部学院大や名古屋学芸大などの四大に24名（53%）、中部学院大学短期大学部などの短大に20名（44%）が合格しました。

### 【商業科】

新しい学科教育の特色を明確にし、経営・情報系の大学・短大への進学が出来る学力を保証し、将来商業の専門職に従事できる基礎的な知識・技能等を習得することを目指しました。

また、進化するICT社会に対応できる簿記やパソコン等、ビジネスに関する基礎的な知識と技術等を習得し、21世紀の社会・経済活動等に必要能力や資質などについても養うことを目指しました。

2018年度の3年生は、延べ21名の4年制大学に合格し、中でも滋賀大、長崎大、富山大の国立大学をはじめ、東洋大、愛知学院大、愛知淑徳大、愛知工大等への合格を達成しています。簿記教育強化策の徹底により、全国商業簿記検定1級(簿記履修者)は、2年連続全員合格、日商簿記2級は2年生合格者2名を輩出することができました。さらに、資格取得による難関大学等への合格を目指し、放課後などの補習もほぼ全員が参加し、確実に学力が身につけていることが実感できるようになりました。

### 【衛生看護科】

看護に関する基礎的な知識・技術を習得し、准看護師試験受験資格を得るとともに、将来、看護師となるための資質・能力・態度や豊かな人間性の養成を目指しました。今年度も、7年連続で准看護師試験に全員合格しています。進学先として、四大へ6名、短大へ4名、高看へ19名進学しました。

### 3. 広報活動

#### 【入試広報】

中学生及びその保護者や中学校の教職員等に、高校生としての学力を保証すると同時に生徒の進路希望を確立し、それを確実に実現する本校教育の良さを理解していただき、本校への信頼を高めています。又、生徒や教職員の活動成果を適時適切に広報し、入学した生徒が着実に成長している姿を理解いただく中で適切な生徒を確保し、入学定員を充足するよう努めました。入試広報活動に対して全教職員の一致協力体制をより強固なものとするとともに、新たに関・美濃地区で説明会を実施、さらに岐阜・羽島の各地区においても、学校説明会の内容を充実し、学校教育の成果を直接PRしました。なお、他校の動向や受験環境等の変化の中での活動となりましたが、志願者数994名、入学者数は269名で前年比志願者は減少しましたが、入学者数は4名の増加となる結果となりました。

### 4. 学校教育改革計画

#### 【宗 教】

計画的な指導を通して、本校生徒に相応しい豊かな心を育てるべく、求める生徒像を学年別に具体的に示しました。また、聖書・礼拝指導の内容の充実に努めました。

#### 【学校経営】

教職員が一致協力・連携し、教育専門職としての誇りを持ち、教科指導、生徒指導、部活動指導等に専念することにより、学校教育目標が達成できる「信頼される学校づくり」に努めました。

#### 【学業指導】

各教科・学科・コース内の連携を密にし、本校独自の学び直し指導の確立を図りました。また、生徒の実態に即した個に応じた指導の徹底を図り、学力保証と進路保証に努めました。さらに、授業の質・内容等の充実に図り、2020年度から始まる新しい共通テスト「大学入学共通テスト」に対応した学業指導体制の確立にも努めました。

#### 【生徒指導】

全教職員の共通理解のもと、教科、特別活動、総合的な学習の時間、部活動の指導における生徒指導を徹底し、さわやかな挨拶の励行、端正な身嗜みの保持、交通安全マナーの遵守などの基本的な生活習慣の確立に努めました。また、学校・学級への適応指導と教育相談を充実し、生徒相互の望ましい人間関係を確立し、生徒一人ひとりが学級の一員として目標を持って、遅刻や欠席及び早退の無い、積極的な学校生活を送れるように指導することや、男女交際の在り方や性に関する指導及びスマートフォン・タブレット等の情報機器の活用について外部講師を招くなどして計画的・組織的・効果的な指導に努めました。

## 【進路指導】

ホームルーム活動や総合的な学習の時間及び教科指導など、全教育活動を通して計画的組織的に実施し、生徒一人ひとりに自己理解力や進路選択の決定能力を育てつつ、望ましい職業観や勤労観を育てるキャリア教育を行い、生徒の進路目標の達成に努めました。2018年度は国公立大学への合格者数10名、四大合格者数193名でした。また、卒業生249名の進路は、四大へ123名、短大へ58名、高専へ12名、各種専門学校へ25名、就職28名、その他(浪人)3名となりました。

## 【保健厚生】

生徒の保健・健康・安全指導を計画的に実施し、生徒の健やかな心身を育むと共に、毎日の清掃美化活動等を徹底し、美しい教育環境を実現することに努めました。

具体的には、生徒・職員双方に対する救急救命法講習会、災害への適切な対応が出来るような防災教育と共に、自他の生命を守るため、緊急地震速報などを活用した具体的な避難訓練の実施、関係機関等との協力、健全な保健・厚生に関わる教育活動などの実践を目指した学校安全衛生委員会、学校保健安全委員会を実施しました。

## 【図書】

生徒の実態に即した図書の充実整備及び生徒の読書活動の推進に努め、みずみずしい感性と豊かな人間性を育てることに努めました。具体的には、クラス別に新入生向けオリエンテーションを実施するなど、読書指導の充実を図り、生徒の図書館利用度を高めることに努めました。また、学校での「古本市」、夏季休暇後の「読書感想文コンクール」を開催するなど、図書館活動を積極的に展開しました。その結果、生徒への本の貸出数は、年間3,496冊(1人あたり約3.5冊から4.5冊)に大幅に増加しました。

## 【特別活動】

キリスト教主義教育の基本の上に立ち、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事・部活動における指導目標と計画を明確にし、指導内容及び指導方法のさらなる改善に努めました。また、生徒会役員選挙やホームルーム活動では、主権者教育を念頭に置き、生徒の公民的な資質の育成や個性の伸長を図り、学校生活における存在感や学校への帰属意識を高めるように努めました。

## 【渉外】

教職員と生徒・保護者・同窓生との連携を深めることを目的に、以下の主な取り組みを行いました。数値的にはやや減の部分もありましたが、例年並みの充実した成果を挙げることができました。

- ① P T A総会出席者数：306名(出席率39.5%、前年比-101名)
- ② P T A郊外研修(愛知学院大学・徳川美術館)参加者数：35名
- ③ 私立高等学校補助金増額請願署名数：40,060筆(前年比-27筆)

- ④ 『済美祭』P T A食品バザー：2, 102食完売（前年比-319食）  
 ⑤ P Tフォーラム『1.2年保護者進路説明会』出席者数：93名  
 済美高等学校創立100周年記念事業については、保護者・同窓生・学院関係者などの協力を得て、素晴らしい式典を挙げる事ができました。

### 【部活動】

今年度は空手部、弓道部、バレー部、新体操部、陸上部、ライフル射撃部が全国大会に出場しました。特にバレー部は春高バレーに出場を果たすことができました。部活動全般にわたり活動内容も充実しています。運動部だけでなく文化系も毎年地域貢献を果たすための活動を行い活躍しています。活躍の状況等については随時ホームページでお知らせしています。

## 5. 環境整備状況

2018年度は、創立100周年の記念すべき年でもあることから、老朽化している玄関の改装、体育館の全面修繕、北舎庭園整備など施設面のリニューアルを行いました。また、北舎西の昇降口を全面改装し、部活動などでの体力向上や教職員の福利厚生などにも利用可能な「トレーニングルーム」を新設しました。さらに、体育館の照明全てをLEDのものに交換し、授業や部活動、学校行事などで十二分に活用しています。

### 1) 教育用機器備品等の整備

高照度プロジェクター購入	324千円
デジタルサイネージの購入	243千円
タブレット端末の導入（追加分20台リース）	290千円
職員用PCの更新（追加分23台リース）	263千円
教室黒板修繕（2ヶ年計画の2年目）	463千円
その他備品修繕等 5件	454千円

### 2) 施設の修繕・整備

玄関改修工事	59,400千円
体育館全面改修工事	48,681千円
体育館照明のLED化工事	5,033千円
職員・生徒・来客用シューズボックスの更新	429千円
北舎100周年記念庭園整備事業	29,139千円
校内防犯カメラの設置	211千円
トレーニングルームの新設	9,936千円
その他の修繕等 18件	2,276千円

### 3. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部

#### 附属幼稚園の事業

##### 1. 教育方針

- 1) 建学の精神を深く理解し、神と人とを愛するキリスト教精神による感動・感化・感謝に結ぶ『明るい楽しい愛の幼稚園』経営に努める。
- 2) 体験やふれあいを基にした自然体験活動や造形・音楽表現活動に力を入れ、園児一人ひとりの個性や感性の伸長に努める。
- 3) 教職員研修を通して教師の資質を高め、園児一人ひとりの安全と保育に責任を持って努める。また、保護者や地域社会の人々から信頼を得られるような子育て相談を充実させ開かれた幼稚園を目指し、情熱と知恵をもって保育に当たる。

##### 2. 教育目標 『心豊かな たくましい子の育成』

##### 3. 園児の募集及び確保

- 1) 特色ある保育の推進
  - ・教材・教具の整備
  - ・図工指導の充実
  - ・教職員研修の充実
  - ・岐阜市私学振興会（特色ある園づくり）への申請
- 2) 開かれた園づくりの充実
  - ・親子わくわく教室の充実
  - ・にこにこプラザ事業の充実
  - ・小学校との連携強化
  - ・福祉施設への訪問
  - ・子育て相談ふれあいサロンの実施
  - ・夏季休業日の希望有料保育の実施
- 3) 保育環境の整備充実
  - ・2階廊下の修繕
  - ・砂場・築山・植木等の補修整備
  - ・飼育・栽培関連等管理の充実
- 4) 広報活動の充実
  - ・カラー印刷機の充実
  - ・ホームページの充実
  - ・月刊雑誌での広報

##### 4. 安心・安全の推進

- 1) 通園バスの安全運転管理
  - ・安全に備えた指導・管理の徹底
  - ・車検・点検等の徹底
  - ・安全運転管理部会研修
- 2) 食育の安全と充実
  - ・安全な食材、食料品の確保
  - ・アレルギー対応
  - ・食器・調理用具の充実
  - ・食育の充実
  - ・害虫駆除及び衛生管理の充実
- 3) 園生活の安全確保と事故防止

・遊具の安全点検と整備 ・バスロケーションサービスの充実 ・緊急メールシステム導入

#### 5. 施設設備及び機器備品等の予算措置

・ 広報活動の充実（ファックス・印刷機の買替）	1,404千円
・ 環境の整備（2階教室廊下天井の修繕・非常灯の取替）	1,080千円
・ 衛生管理の充実（給食調理室の洋式トイレ化）	384千円
・ 衛生管理の充実（調理室・教室の排水の高圧洗浄）	370千円
・ 災害時対応（発電機の蓄電池の取替）	354千円

## 4. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部

### 附属桐が丘幼稚園の事業

#### 1. 教育方針

- 1) キリスト教精神による宗教的情操を養い、「人を愛するやさしさ」「自分で考えるかしこさ」「創りだすたくましさ」を育てることを目指す。
- 2) 豊かな自然や広い園庭を活用して、豊かな感性とたくましい体の育成に努める。
- 3) 楽しくのびのび生活する中で、きまりの大切さや生活に必要なマナーの定着を図る。
- 4) 一人一人に寄り添い、誠意と愛情をもって保育の実践に努める。

#### 2. 教育目標 『なかまとともに 豊かな心とたくましい体をはぐくむ子』

- ◇元気に遊ぶ子（自立）
- ◇仲良く助け合う子（共生）
- ◇見つけ創り出す子（創造性）

#### 3. 重点施策：アクションプラン具現に向けての人的・物的環境の整備

- 1) 特色ある幼稚園づくり（大好き活動）
  - ・自然遊び大好き・・・感性を育む表現活動
  - ・外遊び大好き・・・健康づくり・体力づくり・友だちづくり
  - ・音遊び（歌声）大好き・・・豊かな心を育む音楽活動
- 2) 社会の変化に対応する教育
  - ・新しい幼稚園教育要領の趣旨を生かした教材づくりと評価の工夫（研究）
  - ・学校評価の実施と改善（幼稚園協議会）
- 3) 安全・安心の推進
  - ・緊急メールシステムとホームページの活用
  - ・遊具や砂場等の保守点検の継続及び耐震補強（ロッカー等）の点検修理
- 4) 保護者のニーズに応える保育
  - ・アンケートによる保護者ニーズの把握と子育て相談の充実
  - ・預かり保育の時間や日数や見直し
- 5) 地域における子育て支援センター機能の充実
  - ・0～1歳児対象の「ぴよママ事業」の新設
  - ・子育てファミリープラザ「コミママ事業」の推進
  - ・未就園児事業の見直しと改善

6) 広報活動

- ・ 入園案内パンフレットの改訂版作成 (3年毎実施)
- ・ 未就園児対象事業の広報活動・チラシの配布等の充実

4. 施設設備及び機器備品

・ 遊戯室内装工事 (床・正面壁塗装)	1, 572千円
・ 遊戯室袖幕新設	252千円
・ 空調機更新工事 2カ所 (遊戯室・保育室)	940千円
・ ステンレスシンク取付け工事 2カ所 (手洗い場)	510千円
・ パソコン 2台更新	294千円
・ 玄関ホール壁新設工事	114千円